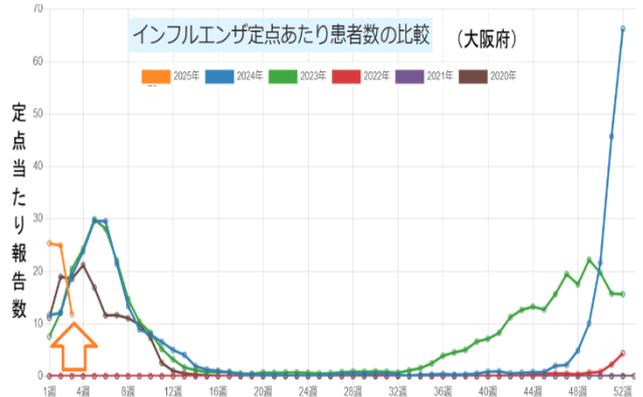
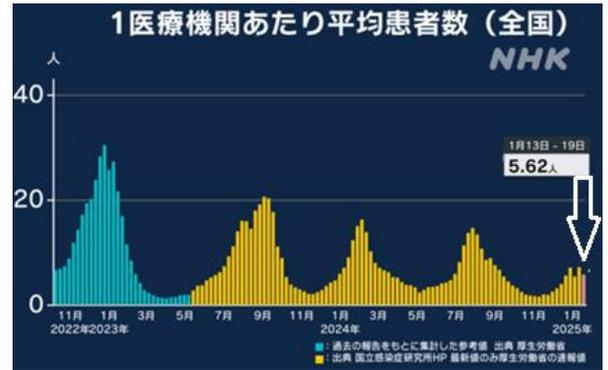


# インフルエンザはピーク越え／感染性胃腸炎に注意

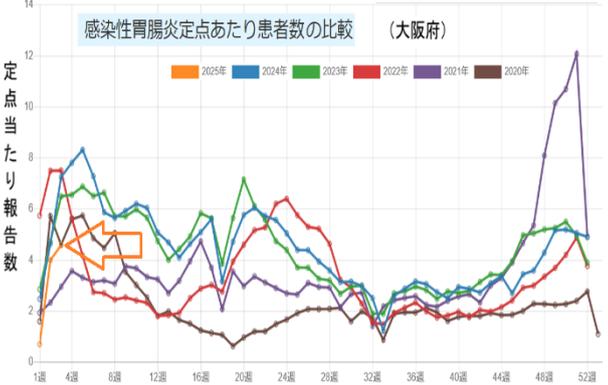
年末年始に警報レベル(定点当たり 30 人)を大きく超えて大流行したインフルエンザですが、1 月 19 日までの1週間で定点当たり患者数は全国で 18.38 人(前週 35.02 人)、大阪では 11.84 人(同 24.93 人)となり、ピークを越えました。今シーズン検出されているのは AH1pdm09 というウイルスがほとんどで、今後 2~3 月には B 型のインフルエンザが流行することも多いので注意が必要です。一回インフルエンザに罹った人も、同じ冬に別の型に感染することもあります。



新型コロナウイルスも減少しており、冬の流行としては今のところ低レベルです。1 月 19 日までの 1 週間で定点あたりの患者数は全国で 5.62 人(前週 7.08 人)で、大阪府では 3.30 人(同 3.76 人)と全国より少ない状況です。



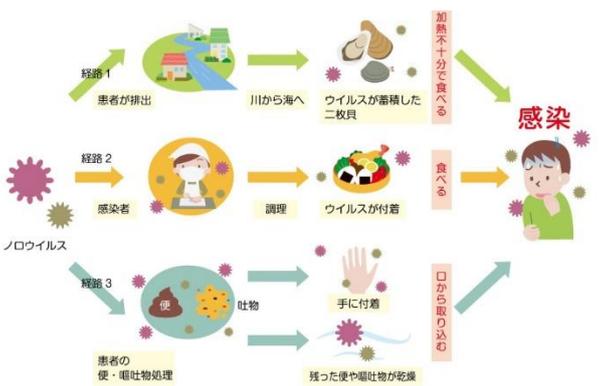
冬の感染症は気温変動に大きく左右されます。暖かい日が続いていますが、気象庁 1 月 26 日発表の 2 週間気温予報では 2 月 4 日ごろから寒波も予想されています。空気も乾燥していますので警戒を緩めることなく、手洗い・マスクなどの予防策を徹底してください。インフルエンザや新型コロナでは、無症状や典型的な症状が出ずに診断されていない方がおられます。また発病前の段階でも人に感染させることがあるので、咳エチケットなどを心がけてください。



## 感染性胃腸炎に注意～ノロウイルスは感染力が強力～

感染性胃腸炎とは、ウイルスや細菌などの病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。中でもウイルス(ノロウイルス、ロタウイルスなど)が原因となることが多く、1 年を通して発生しますが、毎年秋から冬にかけて大流行します。今年も少しずつですが増加してきています。

ノロウイルスの場合は二枚貝などの食品が汚染されていたり、感染した調理員が食品に付着させて食中毒として発生することもあります。以前は 12 月に大流行したこともありましたが、ここ数年は 1~2 月のほうがやや多く、特に保育園・幼稚園では集団感染が多く発生しています。感染力が強く 10~100 個という非常に少ないウイルスで感染します。糞便中には大量のウイルスが排出されますが、症状が回復した患者や、全く症状のない不顕性感染者からの排出されるので注意が必要です。



低温・乾燥で長時間ウイルスは生存し(最長約 1~2 カ月)、通常のアルコール消毒にも強く、加熱消毒は有効ですが十分な時間をかける必要があります(食品は中心温度 85~90 度で 90 秒、調理器具は 85 度以上で 60 秒以上)。次亜塩素酸ナトリウムによる消毒は非常に有効ですが、作り置きすると効果が低下します。最近は酸性やアルカリ性にしてノロウイルスを不活化できるアルコール製剤も販売されるようになりました。こまめに石けんによる正しい手洗いを行うことが非常に重要です。

